

常務理事 県央副支部長
益子 一彦



建築士会は資格団体です。その資格は言うまでもなく建築士です。建築士資格の法的根拠は建築士法にあります。

その建築士法第1条には目的として「・・・、その業務の適正を図り、建築物の質の向上に寄与させること」とあり、2条の2には建築士の職責として「建築士は、常に品位を保持し、・・・建築物の質の向上に寄与するように、・・・」と謳われています。さらに、第3条にあっては建築士でなければ設計できない建物が列挙されています。

ます。

解釈すれば、建築士は「日本において建築の設計をする」という法律上の行為を独占する権利を与えられた資格であり、そして建築士会はその資格を有する人たちだけが加入する団体です。

茨城県建築士会常務理事の役割を頂いたこの機に建築士法の条文と邂逅し再咀嚼するとき、些か重い何かを押し掛かれる思いがします。その重さを感じながら、公共の福祉に寄与することに微力を尽くすべく背筋を伸ばしてこの重責に取り組みたいと思います。会員の皆様にはお世話になることばかりかと思いますが、ご理解の上ご協力下さいますようよろしくお願いいたします。

竜ヶ崎支部長 秋山 穰



この度、歴史ある建築士会の支部長の大役を仰せつかりつかり、責任の重さを痛感しております。

二十歳代のころ机の上での設計では納まらない事があると感じ、自ら設計・積算・基礎鉄筋・鉄骨加工・溶接・建て方などを25年ほど現場での経験を経て、デザインビルド方式で、県南の地域で鉄骨構造建築をメインで設計施工監理業を営んでおります。

支部の事業計画として建築相談会の開催・建築制度の普及宣伝及びホームページの運営・建築パトロール・会員、家族の親睦会（ゴルフ等）・苗の配布・木造住宅耐震診断への協力を計画しています。

若手の人材育成として、本年は「新型コロナ」で開催が行われなかった「茨城県の元気な森林づくり事業」での地域の交流及び木工体験を経て、子供たちが建築への興味を持ってもらえ”未来の建築士”へと育てて頂ければ幸いです。東京オリンピックの開催時期の支部長として、楽しみながら思い切って邁進して行く所存であります。



建築作品紹介

下妻市立下妻中学校

設計 主旨

□立地と計画の背景

下妻中学校は筑波山の西方、豊かな田園が広がる市域の中心に位置する中学校です。かつて農業用水確保に苦心した先人たちによって造られた貯水池・砂沼を取り囲む広域公園に隣接し、沼面越しに紫峰筑波を望むことができる恵まれた環境にあります。5 haに及ぶ広い敷地をこれまで以上に有効に活用するために、老朽化した校舎の建て替えとそれに伴う駐輪場や運動場にまで及ぶ全面的な再整備を行いました。

□配置と全体構成の方向性

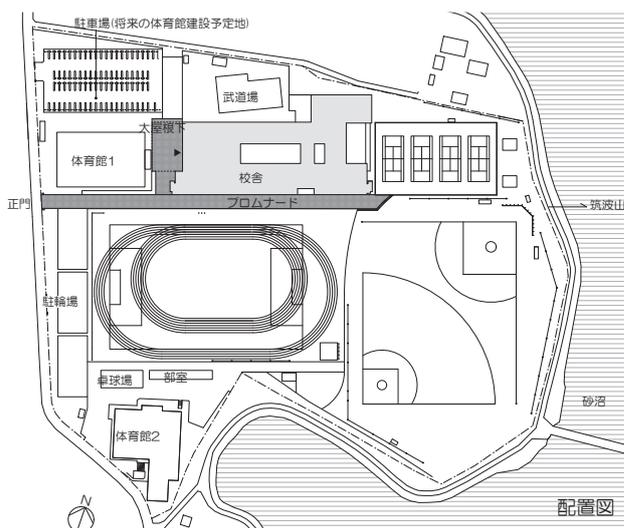
西側正門から東方にそびえる筑波山を向く軸線上にプロムナードを設定し、校舎をこのプロムナード

に沿って敷地北側に直線状に配置しました。3層から成る外観は階ごとに異なる操作を施して、筑波山を指し示す強い方向性と中学校に相応しい躍動感のあるものとししました。

□平面構成

普通教室は、2階3教室と3階3教室計6教室をひとまとまりの学年ブロックとして、3つのブロックを横方向に並べ、その間にはWCや階段等を設け、異学年を緩やかに分節しています。

西側を向く昇降口前には大屋根空間を設け、近い将来に既存体育館が解体された暁には学校の顔となるように、懐の深い構えを作りました。当面は西側に建つ体育館と大らかに行き来でき、登下校時や運動場への出入りの際のバッファゾーンとなり、雨天



■建物概要／下妻市立下妻中学校

- 所在地 茨城県下妻市長塚字新田大道東乙37番2他
- 設計・監理 株式会社 三上建築事務所
- 施設機能 中学校
- 敷地面積 50,690.47㎡
- 建築面積 3,818.49㎡
- 延床面積 8,397.89㎡
- 規模・構造 RC造（一部S造） 地上3階

時には軽運動もできる半屋外空間として供していません。

昇降口を入った正面には大階段があります。校舎の中心に子どもたちの休み時間の交流や集会などに活用できるシンボリックな空間を設けました。この大階段を上った南側に普通教室群、北側に特別教室群を、中庭を挟んで配置しています。

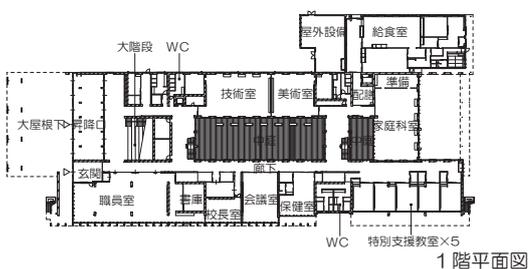
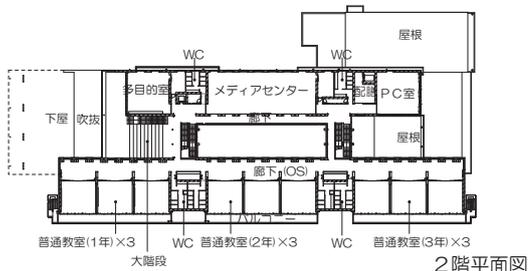
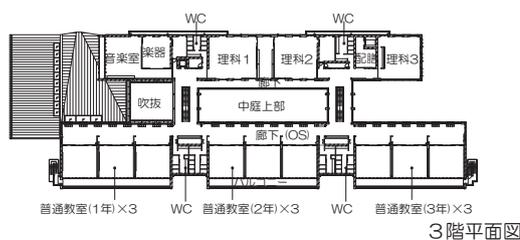
□技術な方策

短手方向、長手方向ともに耐震壁を設ける強度型の構造を採用しています。短手方向の教室間の間仕切りは乾式工法として将来の変換性を確保しながら、教室端部やWC等共用部分を耐震要素とし、長手方向では千鳥に耐震壁を配置して、開口部の確保と耐震要素を両立させています。

耐震壁と同厚の扁平な柱によって凹凸のない壁面と梁型のないヴォイドスラブによって平らなスラブ下をつくり、設備配管の融通性と将来の変換性を確保しています。

校舎中央にはリニアな中庭を設け、1階技術室・美術室の屋外作業スペースとすると同時に、各教室の2方向の開口部によって通風と採光を確保しています。

南側に配置した普通教室の外部には奥行きのあるバルコニーや庇を設けて、夏季の直達日射を遮蔽し、冬季の直射日光を制御して、空調負荷・照明負荷の



低減を図っています。また、屋根・外壁は外断熱工法を採用しています。躯体外部にウレタンフォーム吹付とし、屋根はガルバリウム鋼板で葺き、外壁は同材で覆い、断熱性能の強化による熱負荷の低減、外装の長寿命化、漏水可能性の排除という3つの役割をもたせています。



体育館と昇降口をつなぐ大屋根下



長手方向の耐震壁となる千鳥壁